

今さら聞けない#85・・・「一寸先の光」

1. 「評論家」は不要

右上は、この度、総理大臣になった高市早苗さんとその原動力になった日本維新の会の吉村さんの2ショットです。10月4日(土)に自民党の総裁選で高市早苗さんが選ばれて右傾化に困った公明党が「政治とカネ」の問題を理由に10月10日に連立離脱した結果、単独では無所属の会を合わせても196名になり、過半数の233名には程遠くなったのです。

これを見て立憲民主党は国民民主党の玉木さんを候補に掲げて日本維新の会にも呼び掛けて政権奪取の好機とばかりに野合を持ち掛けたのです。玉木さんは「衆議院議員なので首相になる覚悟はある」と色気を出して立憲と自民の顔色を窺ったのです。そして、グズグズしている状況を見て、吉村さんが「議員定数減」を掲げて高市さんと手を握り連立することになったことは皆様もよくご存じの話です。

ここで論じたいのは玉木さんの行動です。首相になる覚悟があると言いながら立憲の左派との擦り合わせを迫り、埒があかなかったのです。自民・公明・国民の三党合意である「年収の壁」や「ガソリン税」の問題を解決するということが霞んでしまい、擦り合わせで時間を弄した結果になったのです。「一寸先は闇だが、その先は光」と言いますが、「擦り合わせ」を行なっていると「闇」の状態が続き、仮に、「闇」に思えても野合で政権をとっておれば「光」に変えるチャンスがあったのです。頭脳明晰な玉木さんが「一寸先の闇」しか見えなかったのが残念で、ホンマ、政治家ではなく評論家の世界だったと残念に思います



2025年10月24日(金) より

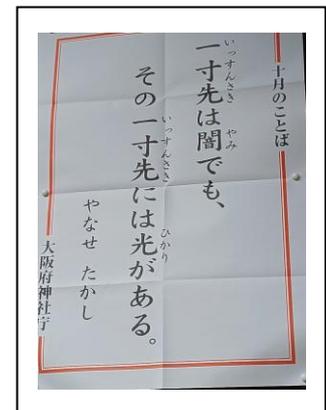
令和7年10月21日現在		
会派名	会派略称	所属議員数
自由民主党・無所属の会	自民	196 (19)
立憲民主党・無所属	立憲	148 (29)
日本維新の会	維新	35 (4)
国民民主党・無所属クラブ	国民	27 (6)
公明党	公明	24 (4)
れいわ新選組	れ新	9 (4)
日本共産党	共産	8 (3)
有志の会	有志	4 (0)
参政党	参政	3 (2)
改革の会	改革	3 (0)
進歩保守こども	こども	3 (1)
無所属		5 (0)
欠席		0
計		465 (72)

衆議院 HP より

2. 「熱量」で動く

右掲は10月の大阪府神社庁のお札ですが、やなせたかしさんの「一寸才は闇でも、その一寸先には光がある。」という言葉を書いています。つまり、人は近視眼的になり目の前のことにとらわれがちで悲観的になりやすいですが、出口のないトンネルはないので闇の中でもチャンス待つ余裕が必要です。玉木さんがグズグズしている状況を読んで吉村さんが、玉木さんは「一寸先の闇」しか見ていないと判断して、日本維新の会の根源である「身を切る改革」を掲げて、一気に呵成に「議員定数削減10%」を高市さんにぶつけたのです。

高市さんは「政治とカネ」の問題が第一優先であれば動けなかったが、安倍さんと野田首相(当時)の解散論議が有名ですが、国会の長年の懸案課題なので受け入れたのです。これにマスコミが驚いてワイドショーなどで吉村さんを招いて、吉村さんが「定数削減をしないならキッパリやめます」という魂を込めた返答で評論家の持ち出す「政治とカネ」などの諸問題を跳ねのけたのです。そして、自民党内でも反対が出る「定数削減」を比例でも構わないと譲歩を見せて解決しようとしたのです。確かに、少数野党の存在に関わる問題ですが、そもそも小選挙区にしたのは2大政党化を図ろうとしたことでもあるのです。それがネット時代になり比例区で当選する人が多くなり、その他にも選挙区で落選しても比例復活でゾンビのように議員バッチをつける人もいます。民意を反映するというなら立憲の辻本さんは比例復活なので「民意」を深く考えて党の要職についているのもおかしい話だと思います。ともかく、なかなか決められない課題ですが、熱い熱量で動かして欲しいと思います。



3. 「状況の反転現象」

何事もうまく行かないことの方が多いのですが、その時は大した影響もないのでスルーしていると進歩のパワーを発揮できないのです。つまり、「一寸先は闇」と言うように誰でもリスクに直面する可能性があります。リスク、つまり、闇にも程度の差がありますが、その影響に対処することで「その先の光」を得ることが可能になります。例えば、考え事でも深みに嵌った際には、一旦、休憩して散歩に出るなどの気分転換を図るとアイデアが浮かぶことがあります。もっと極端な話では、「9.11テロ事件」で世界的に影響を受けた時に、弊社は売上が年間4300万円から一気に2000万円に急落して人件費負担に苦しんだ時がありました。弊社は殆どが人件費なのでアルバイトの方から順に退職してくれて経費負担が軽減されたのですが、その途中で大きな赤字になったのも事実です。

この「闇」から立ち直ったのも「お客様」であり「社員の頑張り」だったのです。なかなか、昇給や賞与を出すことが出来なかったのですが、何とか残って頂いて仕事を続けることが出来たのです。ドラマでは「状況の反転現象」が課題であり、主人公が苦勞の末に好転することが殆どです。弊社も「闇」を抜けた先には「光」が射しているように新しいお客様を得て今日に至っています。つまり、当たり前ですが状況をスルーしてもその場では影響がないと思いますが、「反転」させようとする「熱量」を冷まさないことが重要です。

これは今回の維新と自民の連立にも発揮されたのです。「身を切る改革」で地盤を築いたが、全国区に拡大しようと「大阪維新の会」から「日本維新の会」を分離したが、大阪の「熱量」を維持できずに全国区では存在感が薄れてきた状況下にあったのです。今回、玉木さんのグズグズを見て「瞬発力」を発揮して「熱量」をぶつけて突破口を切り拓いたのが吉村さんだったのです。やはり、思案ばかりでは前に進むことができないのです。「直感力」でチャンスを見出して「瞬発力」で着手して「熱量」を高めることが重要です。「どうせ、やってみないと分からない」と開き直って、ともかく「着手小局」で動いたことが「状況の反転現象」の始まりとなったのです。

4. 「一寸先の光」

トランプ関税で世界的に貿易が停滞し始めて、弊社のお客様は主要顧客である貿易関連の企業から内示が下方修正され、業績に影響が出ています。こんな事情の時に高市さんが首相になり、積極的な外交から明るい希望の光が射し始めています。「失われた30年」とか言われる長期デフレ経済から、物価高で国民生活が不自由になっていますが、若い世代の圧倒的支持を受けて適切な政策を打ち出せば、若い世代に「希望」を与えることが出来ます。この「希望」こそが「一寸先の光」ではないかと思います。

高市さんが日本初の総理大臣になり、しかも、国際会議で諸外国の方たちに囲まれても笑顔で官僚の文書だけでなく機知に富んだアドリブを自身の語学力で発信するスマートさは若い人のロールモデルになると思います。つまり、「活躍の場」が課題なのです。外国人問題も少子高齢化の日本においては避けては通れない問題なので、若い人が語学力を磨いてコミュニケーション能力を高めれば相互理解が深まり、日本の新しい社会を創り出すと期待します。

その為には、諸問題が出て来ますが、対応できない高齢者の意見ばかりでなく、ポジティブに受け入れようとする若い人の意見に耳を傾けることが重要です。オーバーツーリズムと言われるが観光ばかりでなく、日本文化に溶け込んで日本で活躍してくれる外国人と相互に尊敬しあって発展していく時代が来ると期待します。

AIで「一寸先の光」を調べると「一寸先は光」という言葉には、「今がどんなに困難な状況でも、この先に必ず希望がある」という強いメッセージが込められています。これは、一般的に「一寸先は闇」という言葉を持つ「未来はどうなるかわからず、注意が必要である」という戒めの意味とは対照的です。」とありました。警戒ばかりでなく、積極的になって行きたいと思います。